

【令和3年7月】須津・浮島地区の大雨被害による

「富士市災害ボランティアセンター」の活動報告について

令和3年7月1日からの大雨により、富士市の東部地区（江尾）を中心に床上床下浸水が発生しました。富士市社会福祉協議会は、地元町内会ならびに市や関係機関と連携し、被災された方のお困りごとに対応するため、7月6日から7月21日まで「富士市災害ボランティアセンター」を開設しましたので、下記の通り報告いたします。

■活動内容

（１）ニーズ調査

- ・町内会役員、社会福祉法人美芳会、社協職員と浸水被害宅を中心に全戸訪問
- ・困りごとの把握、災害ボランティアセンターのチラシ配布等

（２）被災世帯のボランティア活動

- ・ニーズ 14件 （延べ支援回数 21回）
- ・延べボランティア活動者数 100名
（内訳）市内ボランティア団体等 10団体 95名
市内個人ボランティア 5名

■主な時系列

7/3（土）

- 12：45 防災危機管理課より 江尾地区中心に床上床下浸水多数発生情報
- 14：45 富士市社協情報共有会議
（県内、市内の被害共有、土日の出勤体制の確認、県、市との情報共有等）

7/4（日）

- 9：00 現地調査 （社協職員、県本部）
- 17：00 富士市情報共有会議（社協、市民協働課、防災危機管理課）
（被害状況の共有、災害ボランティアセンター開設検討、ボランティア募集）

7/5（月）

- 18：45 江尾町内会役員会議（社協、市防災危機管理課、市民協働課、県本部参加）
・被害状況の共有 ・ニーズ把握について ・支援体制

7/6（火）～

★災害ボランティアセンター開設

- ◇ボランティア活動開始
- ◇ニーズ調査開始

7/21（水）

★災害ボランティアセンター閉所

※社会福祉協議会内のボランティアセンターで対応

市 災害ボランティア始動

センター開設、泥出しや清掃

今月3日の大雨の影響で、富士市東部の住宅地で多数の浸水害が発生したことを受け、市と市社会福祉協議会は7日までに、災害ボランティアセンターを同市の市フィランセに開設した。同日も市内のボランティアが被災した家屋の清掃などに汗を流した。

同センターは6日午後、開設した。被害が集中した同市江尾の住宅を戸別訪問してニーズを調査し、チラシで支援内容や連絡先を知らせた。

支援要請があり、3軒で支援を完了した。今後、床下の水出し浸水被害は床上23軒、床下60軒の計83軒。市は同日から、被災証明書の発給を始めた。(富士支局・青島英治)

↑
静岡新聞 (7月8日)

←富士ニュース(7月14日)



住宅の泥出しや清掃に汗を流すボランティアら
＝富士市江尾 (富士市社協提供)

災害ボラが支援活動

センター開設し清掃や泥かき



汚泥をスコップでかき出す作業

今月3日の大雨の影響で富士市東部の住宅地で床下・床上浸水の被害が発生したことを受け、市と市社会福祉協議会は6日、本市場のフィランセに災害ボランティアセンターを開設した。9日までに、市内ボランティア団体を中心に、学生

市社協職員など延べ64人がボランティアとして参加し、被災した家屋の清掃や汚泥の撤去作業などに取り組んだ。同センターは6日午後1時半に開設。被害が集中した江尾地区の住宅を戸別訪問してニーズ調査を行い、チラシを配布して支援内

容や連絡先を周知した。支援内容は、家財の片付け、敷地内・住宅内の汚泥の撤去・清掃、家具の移動など。ボランティア以外にも生活上の相談などにも応じた。9日には、22人が住宅5軒の清掃活動や浸水した断熱材の撤去、庭の泥かき、災害廃棄物の運び出し、床下の水出しなどを行った。



かき出した汚泥の運搬作業

東静岡高等学校から、生徒、教諭合わせて12人が参加し、作業に汗を流した。泥かきを行った沼田

龍祈さん(2年)は「自ら志願して参加した。思った以上に被害が大きく、自然の怖さを改めて感じた」と言い、山口貴也さん(同)は「近くに住んでいながらこんなにも被害が出ていることに驚いた。少しでも人の役に立つことができたならうれしい」と話した。自宅が浸水し、支援を受けた杉本照美さんは「地域には一人暮らしの方もおり、力仕事などは人の手を借りないと難しい。ボランティアの方は本当に救世主のようでありがたい。これからの社会を担う学生さんも参加してくれて心強さを感じた」と語った。

市によると、8日午後5時時点の市内の浸水被害状況は、床上22軒、床下61軒の計83軒。